

こども園評価シート (2025(R7)年度自己評価)

本庄東幼稚園

1、園の教育目標

- 生命の尊重
- 思いやりの心
- 自由・自立

2、自己評価の目標

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、教師自らが客観的に自園を見る目を養い、教育内容の改善に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3、評価項目の取組及び達成状況

評価項目	結果(※)	結果の理由
こどもの主体性の育成 継続しての課題。こどもが自分で考えた自由な発想を引き出す保育を活動内に多く取り入れる。	B	合同保育では育まれている。それ以外では製作物の表情や色など細かいところでは子どもが選んでいるが、活動内容からこどもが考えるとなると具体性が見えない。
こどもの気持ちの言語化 こどもが自分の気持ちや考えを言葉で言えるよう、促し、待ち、言葉が分からないときは選択肢を示す。	B	年齢に沿った取り組みはできていた。子どもによって差が大きい。時間に追われて待てないときがあった。
職員間コミュニケーションのさらなる活性化 こどもの見本となる挨拶・返事を基本とし、一人ひとりが自覚をもって積極的にコミュニケーションをとり、012歳と345歳間・常勤と非常勤間等の壁を乗り越えて意思の統一を目指す。	B	意識は持てて努力も見られるものの、一部で結果がまだ伴っていない。職員による差も大きく、複数担任クラスはクラス内でも不足している。

○結果(※)について

A	十分達成されている
B	ある程度達成されている
C	取り組まれているが、達成度は低い
D	取組が不十分である

4、総合的な評価結果

結果	理由
B	進歩しているところとしていないところにムラがある。できなかった理由を考え、話し合うことでそのムラが抑えられていくことが望まれる。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
こどもの主体性の育成	重要課題として複数年継続していくことが必要。抜本的な活動内容の変更も視野に入れ、カリキュラム作成時に相談し、自由に表現できる活動を増やす。
異年齢交流	同じ空間で遊んだり、一緒に過ごす時間を作ることで、地域で失われた異年齢交流から得られる優しい気持ちとあこがれの気持ちを持つ。
職員間連絡の徹底	特に複数担任クラスを重点とし、職員が共有すべきことに漏れがないようなシステムを実行していく。